

## チェックリスト（臨床実習経験表）

当該実習： 見学 ・ 評価 ・ 総合Ⅰ ・ 総合Ⅱ

**<記録する上での注意点>**

実習期間中に経験させていただいた事項を随時的に記録をとってください。

手順：1週間毎に学生自ら記録をしますが、必ず指導者の先生同意のもとで記録をつけて下さい。

なお、同一週で複数回経験した場合は、最も高い基準を記録してください。  
(例：月曜日にCで金曜日にAとなったら記録はAとする)。

各水準の全項目を経験できれば良いですが、必ず実施しなくてはならないわけではありません。

また、右に記録基準がありますが、実施項目全てAでなくてはならないということもありません。

可能な範囲でより多くの項目をAにできることが望ましいことです。

学生氏名： \_\_\_\_\_

**<記録基準>**

- ・ C：見学した場合
- ・ B：指導者の指導下/監視下で一緒に実施した場合
- ・ A：指導者の指導下/監視下で独力で実施した場合
- ・ 空白：未実施

※見学および評価実習で経験した項目には、それぞれの期間で経験した上位基準が記してあります。

水準Ⅰ項目：指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目。											
項目	見学実習	評価実習	総合Ⅰ	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
動作介助	基本動作、移動動作、移乗介助	例：C	例：A	例：A							
	体位変換										
リスク管理技術	スタンダードプレーション※										
	症状や病態の観察										
	バイタルサイン測定										
理学療法評価技術	各種モニター評価										
	情報収集										
	画像評価 (X線, MRI等)										
	統合と解釈										
	臨床推論										
	問診, 視診, 触診, 聴診										
	形態計測										
	感覚検査										
	反射検査										
	筋緊張検査										
	関節可動域検査										
	筋力検査										
	協調運動機能検査										
	高次脳機能検査										
	脳神経検査										
	姿勢観察										
	動作分析 (起立動作)										
	動作分析 (歩行)										
	バランス検査										
	QOL評価										
	ADL評価										
	IADL評価										
	疼痛評価										
	整形外科テスト										
	BRS検査※										
背筋機能の評価											
運動前用能の評価※											

※スタンダードプレーション：「標準予防策」患者および周囲の環境に接触する前後に手指衛生を行い、血液等に曝露するおそれのあるときは個人防護具を用いること。

※BRS検査：Brunstrom recovery stage test.

※運動前用能：6分間歩行テストなど。

水準Ⅰ項目：指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目。											
項目	見学実習	評価実習	総合Ⅰ	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
理学療法治療技術	関節可動域運動										
	筋力増強運動										
	全身持久運動										
	移乗動作練習										
	移動動作練習										
	ADL練習										
	IADL練習										
	ホットパック, パラフィン療法										
	寒冷療法 (クリッカー, アイスパック等)										
	蒸気浴療法										
義肢・装具・福祉用具	義肢・用具の使用										
	義肢・用具の使用法の指導										
その他	ポジショニング										

水準Ⅱ項目：指導者の補助として実施されるべき項目および状態。											
項目	見学実習	評価実習	総合Ⅰ	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
リスク管理技術	創部管理										
	褥瘡性症候群の予防										
	簡易ポンペへの操作										
理学療法評価技術	診療録 (カルテ) 記録										
	急性期またはハイリスクの水準Ⅰ項目										
理学療法治療技術	大加力な機器を使用した検査 (心電図検査等)										
	急性期またはハイリスクの水準Ⅰ項目										
	治療体操や離床練習										
	発達促進手技※										
	経膈治療法										
	電気刺激療法										
義肢・装具・福祉用具	急性期またはハイリスクの水準Ⅰ項目										
	義肢・用具の調節										
その他	ポジショニング										

水準Ⅲ項目：見学に留めておくべき項目および状態。											
項目	見学実習	評価実習	総合Ⅰ	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w
理学療法評価技術	患者家族への説明										
	精神心理検査										
理学療法治療技術	喉吸引										
	人工呼吸器の操作										
	生活指導										
	患者教育										
	感染リスクのある水治療法										
	電気刺激療法										
	近赤外線療法										
がん治療											
その他	ポジショニング										

※：発達促進手技：ボイタ法, ボーナス法など。

※：CPM：Continuous passive motion.

参考：日本理学療法士協会

日付： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

実習指導者名 (自署)： \_\_\_\_\_ 印